

組織目標評価報告書（平成28年度）

部署名： 岡山大学病院

部署長名： 榎野博史

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部署での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>教育面では、優れた医療人を育成するため、医療スタッフへの教育・研修の充実を図り、卒前臨床実習と卒後臨床研修の体制を強化するとともに、新専門医制度に対応した専門医研修プログラムの作成を行い、専門医の育成を推進する。</p> <p>また、国際面での人材育成として、海外医療スタッフ及び医療系学生の研修の受け入れ、海外医療施設での教育等を行う。</p>	<p>1) 教育の達成状況</p> <p>① 医学生を対象とした早期体験実習や社会コミュニケーション、研修医を対象としたマッチング説明会、指導者を対象としたFDワークショップなどでアンケートを行い、教務委員会や医科卒後研修委員会、医学教育部門・卒後臨床研修センター合同会議などでの検討結果を総合的に各部署にフィードバックした。その結果、医学生や研修医への効率的な情報提供につながり、継続的にフルマッチとなっている歯科と同様に、7年ぶり、46名に定員を増やして初めての医科の研修医フルマッチを達成した。</p> <p>② 卒後研修歯科医およびコデンタルスタッフの研修の点検、検証、改善のため、2つのワーキングによる検討を開始させた。「歯科コメディカルスタッフ育成のための教育・研修検討ワーキング」では、過去の研修状況、アンケート結果に基づき、歯科衛生士については学外研修施設の見直しを行い、技工士については、先端の技術の研修を実施した。「歯科医師卒後臨床研修改善ワーキング」では、アンケート結果に基づき、該当診療科に改善を求めた。また、シミュレーション教育の改善および在宅歯科診療研修について、来年度に向けて新たなプログラムを検討している。</p> <p>③ 研修医受入・指導体制充実を目的として指導医数を増加させるため、指導医講習会を開催し医科は、院内指導医を18名・院外指導医を17名の併せて35名、歯科は、院内16名院外24名の併せて40名の指導医を増加させた。</p> <p>④ 各領域毎に新専門医研修プログラムを作成した。なお、新専門医研修制度の本稼働は1年先伸ばされ、平成30年度から実施されることになったが、平成29年度より先行して実施する領域においては、専攻医の選考を円滑に実施した。</p> <p>2) 国際的な人材育成</p> <p>① 民間NPOなどと連携し、海外から医師・技師等を計8名受け入れて研修を行った。また、看護師については、学内外の国際交流経費を獲得し、平成29年1月に、看護実践人育成プログラムにより外国人看護師2名を受け入れ、2週間の見学実習を行った。</p> <p>② 国際的な人材育成として、中国、ミャンマー、タイ、エジプトから外国医師・歯科医師を受け入れ、平成29年3月末までに18名の臨床研修外国医師等を受け入れ教育・研修を実施した。また、外国医師等の受け入れ体制の強化として、平成29年3月末までに指導可能な医師・歯科医師が130名を超える体制を整えた。</p> <p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>SGU事業採択大学である本学において、病院が行っている、ミャンマーやアジア圏の医療に対する、現地での手術の実施・教育や、日本国へ招へいし日本の進んだ医療を実際に学ばせる研修を数多く行っていることは、大学の国際的な立ち位置を押し上げる効果を持っていると考えている。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
②研究領域	自己評価
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>研究面では、臨床研究品質確保体制整備事業を実施するため、国際水準の臨床研究・治験の実施環境の整備を行うとともに、新たな医療の創成、先端的な医療の推進のための大規模な臨床研究及び治験を実施する。</p> <p>また、橋渡し研究拠点病院として、健康寿命の延伸を目指した次世代医療を実現するための体制を整備し、中国・四国地区を中心とした各病院のシーズ発掘を行い、臨床研究、薬事申請への接続を支援する。</p>	<p>① ARO支援件数はコンスタントに36件(H28年12月現在)を実施した。また、中央西日本コンソーシアムに関する事業に関しては、関連SOPが完成した。本コンソーシアムをプラットフォームとして、2つの岡山大学主幹の企業出資自主臨床試験については、それぞれ契約に向けて鋭意支援を進めている。</p> <p>② コンソーシアム内の他施設を主幹とする医師主導治験に対しても、継続的にARO支援中であり、こちらも早期の契約を目指す。</p> <p>③ 中国・四国地域のアカデミアを訪問し、橋渡し研究の趣旨説明やシーズ応募希望研究者との個別面談を行い、応募に関する相談を行った。また、継続シーズについては、次ステップへの移行、問題点の解決のためのフォローを行った。各アカデミアでは、治験実施部門、産学連携部門、TLOとの連携を取り、シーズの掘起しを行った。その結果、平成29年1月現在において、29年度への応募シーズ数は昨年度の74件から111件へと約50%増加し、その中でも拠点外シーズの占める割合が34%から48%へと増加した。</p> <p>④ 本年度採択期間が満了する橋渡し研究戦略的推進プログラムについても、継続し実施するため第3期についても申請を行い、採択を受けた。</p> <p>⑤ 医療法上の臨床研究中核病院について、本年度申請を行い、1月にサイトビジットを受審し、現在、審査結果の通知を待っている状況である。</p> <p>注) ARO: Academic Research Organizationの略で、アカデミック臨床研究機関。臨床研究の実施にあたっての支援を行う。 SOP: Standard Operating Proceduresの略で、業務の品質を保持し均一にするために、その業務の作業や進行上の手順について詳細に記述した指示書。日本語では、標準作業手順書と表される。</p> <p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>研究大学である本学において、旧帝国大学と慶応義塾大学しか採択をされていない臨床研究中核病院整備事業と橋渡し研究加速ネットワークプログラムを本院が獲得でき、その後継の事業の採択を目指すことは、大学としての立ち位置を上げることに繋がると考えている。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> 1. 社会貢献面では、岡山県が構築した地域医療連携システム「晴れやかネット」の利用促進等により、地域医療機関との連携を強化するとともに、中核的医療機関としての機能を果たす。 2. 診療面では、移植医療、遺伝子治療、再生医療及びロボット医療等、先進的かつ高度な医療（臨床研究・治験を含む）を安全に配慮しつつ推進する。 3. 運営面では、国立大学病院管理会計システム(HOMAS2)の安定稼働に努めるとともに、経営の健全度を評価するための様々な経営分析ツールを活用し、客観的な経営分析を行うことにより、病院経営の安定化を図る。また、医療材料や医薬品等の費用対効果を検証し、効率的かつ経済的な運用によりコスト削減を推進する。 4. 地域医療連携推進法人の設立について検討する。 5. 国際貢献として、引き続き、ミャンマー等に対し国際医療支援を行う。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> <b>1) 社会貢献・地域連携について</b> ① 「晴れやかネット」に関しては、平成28年8月22日に院内講習会を実施し、併せて、「HMネット(広島)」との相互接続を行ったことの周知を行い利用促進を行った。また、双方向情報共有整備事業により、病院-診療所間、診療所-診療所間、診療所-薬局間の双方向の情報共有を実現させた。地域連携のための広報活動として、総合患者支援センターニュース・年報の発行と医局訪問によるPR活動を継続し、新たに院内だよりを発行した。 ② 岡山県がん診療連携拠点病院である本院は、平成28年1月のがん登録法施行に沿って、院内がん登録室とがん登録部門会議の設置準備をWGを設置して検討を開始させた。WGでは2014年度岡山県がん診療連携拠点病院院内がん登録報告書の作成に着手し、今年度内に配布する。また、県協議会のがん登録部門にてがん登録データ解析を行い拠点病院間比較データを各拠点病院に送付した。 医師のための緩和ケア研修会(5、9、3月)の開催、拠点病院医療従事者のためのがん化学療法チーム医療研修会(9月)を開催し、研修会開催評価を行った。岡山県がん診療連携協議会において、岡山県とともに県がん対策における拠点病院のPDCAサイクルによる対策推進の見える化を進めている。腫瘍センターのがん地域連携部門会議により、既存のがん地域連携パスの改訂を開始させた。また、ハローワーク及び社労士会との提携にて岡山大学病院で就労相談を開始した。 ③ 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として、県内における診療水準の向上や均てん化を図り、医療従事者や患者等を対象とした研修会(10、3月開催)や肝臓病教室・家族支援講座(5、8、11、2月開催)の開催、相談支援を継続して行った。肝炎検査及び受診促進の普及啓発活動として、事業場等へ出向いての出張肝臓病教室(28回予定)、9月25日にはサッカークラブ ファジアーノ岡山ホーム公式戦において「無料肝炎検査キャンペーン2016」を実施した。また、県内市町村、保険者等の関係団体と意見交換の場を持ち肝炎対策に関する技術支援を行った。 ④ 岡山大学病院へのスムーズな患者紹介を目的として、本院診療科毎の個別ルールを撤廃し、初診予約診療科情報一覧(医科)を整備し、更にホームページに掲載し周知を図った。また、連携医療機関へ訪問し、意見交換を逐次実施した。 <b>2) 診療について</b> ① 臓器移植医療センターは定期的にカンファレンスを行い、困難症例の問題点、最新知識のアップデート、リスクマネジメントについて見識を高め、安心安全な医療を実施した。また、ベトナムで最初の成功例となる生体肺移植を実施し、患者の生命を救うとともに、ベトナムへ新しい医療技術を示し、今後のベトナム医療の進展に寄与した。 ② 低侵襲治療センターは、関連診療科と連携し内視鏡外科手術を安全に推進すべく、カンファレンスでの慎重な検討の下で日々の鏡視下手術を施行し、将来を担う術者育成のための教育研修等も計画通り行った。また、院内の内視鏡外科技術認定医も増加させた。 ③ 世界初の小児心不全に対する再生医療の第2相臨床研究成果は2017年1月に英文科学雑誌Circ Resに受理され公開されている。平成28年に実施承認された第3相国内共同臨床治験を現在登録実施中である。また、平成28年度に新規採択された再生医療実用化研究事業に関しては、現在特定認定再生医療等委員会にてプロトコル審議中であり、平成29年度内での拡張型心筋症に対する新たな臨床研究を開始する予定である。 ④ 悪性胸膜中皮腫に対する遺伝子治療では、国内4施設共同での企業治験を実施中であり、治験全体としては症例登録がさらに進んでいる。 ⑤ 食道癌に対する放射線併用ウイルス療法の臨床研究はレベル2(中用量)の3例を実施し、計10例の治療を終了した。レベル3(高用量)の6例の治療準備を進めている。企業治験は治験実施計画書を整備し、カルタヘナ承認の後に治験申請予定である。国立がん研究センター東病院と共同の医師主導治験は、PMDAとの対面助言を実施した。 <b>3) 運営について</b> ① 経営戦略会議において、病床稼働率等の経営指標の検証・分析を行った。また、MBO(目標管理)の達成状況について、中間時点での病院長ヒアリングの実施、各科の目標達成状況をチェックするなど病院の安定的経営に努めた。 ② 原価計算システムや経営分析システム等を利用して、医薬品・医療材料等の他大学とのベンチマーク分析を行い、請求額の増加に努めた。医療材料・医薬品の使用実績等について、各種システムを活用して分析を行い、値引き交渉等を行った結果、医療材料については購入額(税抜き)で約4,210万円の削減(H28.12末現在)、医薬品については値引率(税抜き)12.62%(H28年度上半期実績)の削減効果を得た。 <b>4) 地域医療連携法人について</b> 地域医療連携法人については、在岡山の関係病院と構想検討委員会にて検討を行うと共に、在京の各病院の上位団体とも検討を行い、実現に向けて具体的な案作成を実施した。 <b>5) 国際貢献について</b> ① JICA支援による国立六大学ミャンマー医学教育強化プロジェクトでは、救急領域での医師2名の臨床修練研修を行った。3月には、現地でプロジェクトの合同調整委員会が開催され、指導医師等が研修の成果について発表する予定である。外科系手術支援では、年間2度に渡り、医師を派遣した。 ② 増加する外国人患者の受入体制を整備し、日本医療教育財団の外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)の受審を決定し、3月23日～24日に訪問調査を受けた。 <b>③-2 大学全体への貢献</b> 医療による社会貢献は、社会に対するインパクトが非常に大きく昨年12月に民間リサーチ会社が発表した中四国の大学のブランドイメージ第1位となったが、肺のハイブリッド手術の成功がその理由の一つとして上げられている。先進的な医療を数多く実施する本院は、大学全体の社会的な立ち位置を上げることにも貢献したと考える。また、経営面で安定した収入をあげることで全学の財政的基盤を支えることができたと考えている。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 医療収入、診療経費、病床稼働率	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 毎週開催している病院長を議長とした経営戦略会議において、収益額、病床稼働率、医療費率など常に監視し、異常値が出た場合は直ぐに関係診療科等とヒアリングを行い原因究明し改善を行っている。また、MBO(目標管理)を実施し、種々の経営指標について各診療科に数値目標を立てさせて、経営に参加させる体制をとっている。
<b>【総括記述欄】</b>	
平成28年度の組織目標の達成状況は、病院全体として優れたものであったと考える。 教育領域では、歯科のみならず医科においても、岡山大学病院で卒業臨床研修を希望する学生が、定員を100%満たすフルマッチとなったり、新専門医研修制度の準備を着々と進めている状況など、堅実に従来行ってきたことを着実に結果に結びつけている。国際化についても、システムのJICA事業のミャンマー支援と行うとともに、各診療科等が他職種の医療従事者を受け入れて数多くの診療科が研修を行うなど継続的、且つ量的にも充実されつつある。 研究領域では、橋渡し研究戦略的推進プログラムが第3期採択を獲得し、まだ採択通知は来ていないが、医療法上の臨床研究中核病院の獲得に向けて精力的に動くなど、継続的に臨床研究の推進を行う行動をとっている。 遺伝子治療や臓器移植手術、また内視鏡手術ロボット手術においても順調に実施されており、移植医療については、海外からの要請により手術を実施するなど国際的にも認知されたものとなっている。総合診療棟をフルに活用してこれらの高度な手術の実績を伸ばしており、平成27年度は目標であった年間手術件数1万件以上を達成し、本年度においても同様となる予定であり、「最後の砦」病院の使命を果せるよう日夜努力を続けている。	